

渡辺復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(令和元年6月2日(日) 11:50～11:55 於) 広野町・檜葉町)

1. 発言要旨

今回の検討会では、12市町村の地域の中で初めて検討会が行われたということで、大変意義のあるものだというふうに思います。その中で、さまざまな委員の皆さんから御助言をいただきました。

参加者の御発言の中で復興の進捗に関するものとして、委員からは「Jヴィレッジが本来の姿に戻りつつあり感慨深い、新たなステージ」との発言や、また一方で「若者の帰還が進んでいない」など、そのような御意見がございました。また、国への意見・要望等につきましては「交流人口の拡大の取り組み」「移住推進へのサポート」、そして「来年に開催されますオリンピック・パラリンピックに向けて、復興を世界にアピールする必要があります」などの御意見、御発言がありました。

さまざまな発言がございましたけれども、特に今回の発言の中で印象深く思われたものを今述べさせていただきます。今後、本日いただいた御意見をしっかりと受けとめて、関係者と連携しながら取り組んでまいります。

2. 質疑応答

(問) 先ほどの発言の中で、来年総点検をされて、21年度以降の進め方について考えていきたいというお話だったんですが、今の中で、この協議体を21年度以降も残して、また継続的にやっていくという考えはあるのでしょうか。

(答) 先ほども申し上げましたとおり、2021年度以降についても発言をさせていただいたということは、当然検討の継続を前提として考えているわけであります。

(問) 先ほど、会議の最後になりましたけれども、復興・創生期間後も中長期的な対応をということで、知事からも話があったと思います。大臣、改めてそのあたりをどのように取り組まれていくかという方針。復興・創生期間後も継続してという話があったと思うので、そのあたり、どのように進めていかれるか。

(答) まず、復興・創生期間後の組織については、3月の基本方針の見直しに明示されているように、復興庁の現在の組織のような機能を持つこと、そして政治のリーダーシップのもとに進めていくという大前提がございます。そういったことを踏まえた上で、さまざまな視点については、今後まだ検討していかなければなりません。方向性としましては、今年度中に明らかにしていきたいと

いう段階であります。

(問) 先ほど、この会議自体も21年度以降も継続することを前提としているお考えですというお話がありました。当然、継続されることが前提になっているので、効果があったというふうに大臣もお考えだと思えるんですけども、現時点で何かこんなところに効果があったというような、そういう評価を教えてくださいませんか。

(答) 現在の評価としては、当然これを継続的に進めていることによって、まず12市町村の連携が大分進んでいるということは事実だと思います。そしてまた、さまざまな問題点について共有できる、こういったものがあるというふうに思っております。

(問) 政府もともにということになるわけですね。

(答) ええ。まず12市町村そのものが一堂に集まって話しするということは、まさにそれぞれの地域の問題点を共有できるということでありまして、この福島の復興・再生に向けて、大変重要な位置づけをこの検討会でしているというふうに思っております。

(問) 12市町村で共有できているというお話があったんですけども、それとともに政府も12市町村と共有するところも共有できて、一体としてやっているという、できているということになるわけですね。

(答) そういうことです。

(問) ありがとうございます。

(答) したがって、先ほども2021年度以降についてということも前提としてお話ししましたけれども、これは先ほど少し漏れましたけれども、委員の皆さん方と相談しながらやっていくということでもあります。今言ったように評価を、当然私どもはしているわけですので、この点については進めていきたいというふうに思います。

(以 上)